

名古屋市内で再発見されたマルタニシ

川瀬 基弘⁽¹⁾ 石黒 鎌三⁽²⁾⁽¹⁾ 愛知みずほ大学人間科学部 〒467-0867 愛知県名古屋市瑞穂区春敲町2-13⁽²⁾ 愛知県名古屋市中川区*Cin pangopaludina chinensis laeta* rediscovered in Nagoya, Aichi Prefecture, JapanMotohiro KAWASE⁽¹⁾ Ryozo ISHIGURO⁽²⁾⁽¹⁾ Department of Human Science, Aichi Mizuho College, Shunko-cho 2-13, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi, 467-0867, Japan⁽²⁾ Nakagawa-ku, Nagoya, Aichi, Japan

Correspondence:

Motohiro KAWASE E-mail:kawase@mizuho-c.ac.jp

採集報告

マルタニシ *Cin pangopaludina chinensis laeta* (Martens) は、水田、水路、湿地や小川など年間を通じて極端に乾燥せず水質が比較的良好な場所に生息し、かつては日本全国で多産した。しかし近年は、水質汚濁、農薬散布、河川改修、水路の三面コンクリート張り、水田の冬季乾田化により生息地・生息数ともに全国で著しく減少している。

マルタニシは環境省第4次レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に選定され（環境省、環境省第4次レッドリスト 貝類、http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=20555&hou_id=15619, 2014年8月18日確認）、愛知県では準絶滅危惧に選定されている（愛知県環境調査センター、2009）。特に名古屋市では、上記の理由に加え、宅地開発による水田・水路の減少や圃場整備が進みマルタニシの生息環境自体が激減し、絶滅危惧ⅠA類に選定されている（木村、2004）。さらに酒井（2002）の守山区での記録（約10年前の記録なので実際には1992年頃の記録）を最後に、「レッドデータブックなごや2004」の調査時にもマルタニシの生体は確認されていない（木村、2004および木村、私信）。

2015年に改訂発刊予定の名古屋市版レッドデータブックの調査を2012年夏期～2013年夏期に行ったが、市内の主要な水田・水路でマルタニシを発見できなかった。特に生息の可能性が期待された北区・守山区の水田・水路

においても発見できなかった。その後、著者の一人である石黒により、2013年秋期に港区・中川区の水田・水路の全域的な調査が行われた。50ヶ所以上の調査を行ったところ、調査地の大部分にヒメタニシが多産した。このうち、中川区江松西町（図1）および中川区富田町（図2）の水路においてマルタニシの生体と死殻を各1個体確認した。そこで、2014年5月10日に詳細な調査を行ったところ両地点においてマルタニシの生体を数個体ずつ確認することができた（図3）。

調査地の水路はいずれも砂泥が堆積し水深は10～20cm程度であった。流れは非常に弱く、砂泥が厚く堆積している周辺では部分的に水が停滞していた。いずれも



図1. 中川区江松西町の水路



図2. 中川区富田町の水路



図3. マルタニシ *Cinpangopaludina chinensis laeta* (Martens)

ヒメタニシが高密度に生息し、極めて稀にマルタニシが混在していた。

今回の発見により、名古屋市内から約20年ぶりにマルタニシが再発見されたことになる。

引用文献

酒井 類. 2002. 名古屋市守山区の淡水産貝類. かきつばた, (28): 15-17.

愛知県環境調査センター. 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2009—動物編一. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋. 651pp.

木村昭一. 2004. ⑧貝類. 名古屋市動植物実態調査検討会 (監修). 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2004—動物編一, pp.263-292. 名古屋市環境局環境都市推進部環境影響評価室, 名古屋.